

わくわく!ふくいっ子NEXT

R8.8.4 文責 福井小学校長 鶴本正道



夏休みを振り返る～学び続けること、そして変わる勇気～

保護者の皆様、長かった夏休みもいよいよ終盤を迎えますが、いかがお過ごしでしょうか。子どもたちはそれぞれの場所で充実した時間を過ごし、ひと回り大きく成長した姿で登校してくることを期待しています。

さて、この夏、日本を代表する作家である東野圭吾さんの訃報に接し、大きな喪失感を覚えています。私自身、東野さんの作品との出会いは、映画『容疑者Xの献身』を見たことでした。その魅力に引き込まれ、『真夏の方程式』の映画にも足を運びました。その後、原作の小説にも挑戦したのですが、私にとっては少々難解で、何度も何度も読み返さなければ理解できず、完読するまでにとっても時間がかかったことを覚えています。しかし、数々の緻密な伏線回収や、人間の複雑な内面を描き出した作品群は、そうしてじっくりと向き合うからこそ、私たちに深い思索と感動を与えてくれました。

そんな東野さんが、かつてある講演の中で遺された言葉が、改めて心に深く響きました。

「意見を変えたら恥と思わずに」

「人間は変わった方がドラマチックです」



私たちは、一度口にした言葉や自分の意見を変えることに、どこか躊躇してしまいがちです。「一貫性がないと思われないか」「ぶれていると周囲にどう見られるか」と、過去の発言に縛られてしまうことはないでしょうか。しかし、東野さんは「勉強していくらでも意見を変えていい」と、力強く背中を押してくださっています。

なぜ、そこまで言い切ることができるのでしょうか。それはきっと、人生を生涯勉強の場と捉え、日々新しい知識や経験を吸収し続けているからに他なりません。夏休みというまとまった時間を経て、子どもたちが新しい経験や学びを得ているように、昨日の自分より賢くなっていれば、昨日までの考えや意見が変わることは、むしろ極めて自然であり、知的成長の証なのだと改めて教えられた気がします。

小説を何度も読み返してようやく理解が深まるように、人間もまた、学びを重ねることで少しずつ変わっていくことができます。子どもたちの日々の姿を見つめていても、失敗を重ね、昨日までできなかったことができるようになる過程そのものが、劇的なドラマに満ちています。そしてそれは、大人になった私たちも決して例外ではありません。

「変わることを恐れず、学び続けることで、昨日より少しだけ豊かな自分へと変化していく」

9月から始まる後期後半に向け、子どもたちの柔軟な成長を温かく見守りながら、私たち大人も変化を楽しみ、学び続ける人生を歩んでまいりたいと思います。